

今月のこの1冊

車夫 いたう みく 著
観光地を走る人力車の引き手を車夫といいます。陸上部だった十七歳の吉瀬走はある事情から高校を辞めて浅草で車夫になることを決めました。走と周囲の人の語りによって、走の事情や関係、過去が明らかになります。人力車を通じ、彼らは前を向き、新しい一歩を踏み出します。著者いたうみくさんの「二日月」は今年の課題図書です。図書室にはその他の課題図書もあります。



【開室時間】火～金曜日 10:00～20:30
土・日曜日 10:00～17:00
【休室日】毎週月曜日
※貸出冊数は4冊まで、期限は2週間です

新しく購入した図書(主なもの)

- 一般書 ●
 - ・眩 朝井まかて
 - ・サブマリン 伊坂幸太郎
 - ・海の見える理髪店 荻原浩
 - ・アンと青春 坂木司
 - ・君の臍臓をたべたい 住野よる
 - ・暗幕のゲルニカ 原田マハ
 - ・ふたりの文化祭 藤野恵美
- 児童書 ●
 - ・わたしは樹木のお医者さん 石井誠治
 - ・まだかなまだかな たけしたふみこ
 - ・天と土の方程式 3 高安陽子
 - ・モカと幸せのコーヒー 刀根里衣
 - ・脱走ペンギンを追いかけて 山本省三

みんな集まれ！子どもの広場・おはなし会

◇子どもの広場
内容 「カエルびよん」をつくります
日時 6月11日(土) 10:00～
持ち物 はさみ・カラーペン
対象 5歳～(未就学児は保護者同伴)
場所 町民センター2階 小会議室A
申込み 直接図書室または ☎ 82-5221へ

◇おはなし会(第2土曜日、第3水曜日)
日時 6月11日(土) 13:00～
6月15日(水) 15:00～
場所 町民センター3階図書室
申込み 申込みはいりません

毎月1日は、【開成ファミリー読書デー】
家族みんなで本を読もう!

●家庭・地域・学校などでの読書活動を推進するため、開成町では毎月1日を「開成ファミリー読書デー」にしています。

*文芸

開成俳句会 俳句 五月吟
花冷えや予定変えたる部屋籠り
軒下に貼り付く型つばめの巣
まず車庫を片付けてより燕の巣
山桜の吉野夢みて散歩して
麗しやふわりと揺るる白牡丹
高級な田楽となる銀座店
菓燕を見守る婆の独り言
子に伝ふべきこと多し手毬花
菓つばめの家族増えいる気配かな
生きここの続く返信軒つばめ
遠藤シズ子 選評
波多野すみ枝
濱本 主雄
有賀 孝子
奥津らわき
下澤 操子
瀬戸 悦子
遠藤マツエ
遠藤まつ子
遠藤美津子
選者吟

ともしび短歌会 短歌 四月詠
慈雨止みて雲うすれたる彼方へと
群れゆく鳥の揃ふ羽ばたき 諸星 未子
渡り鳥が一齐に飛び立つ瞬間を、視覚と聴覚により描出した。「上の句」は、旅立ちを促す雨上がりと飛び方向の景を、「下の句」では、出立時の皆一様の喜びの様子を、巧みに捉え見事である。
メーカーの食品廃棄聞かたびに 石井はま江
飢餓状況の子供達は、世界で数多くいる。そのような中、大量生産の裏で、消費・賞味期限の名の下、食品廃棄が行われている。作者は、この矛盾の行為に憤激しているのだ。考えさせられる短歌。
二世代を女子誕生せぬ我が家にも 府川ハツエ
男子系の家に待望の女子が誕生した。曾祖母である作者の諸手を挙げて喜んでいる様が目に浮かぶ。二世代、曾孫、姪などの一連の言葉と「結句」の口語的な表白が、状況説明の効果を高めている。
新井たか志 選評
近藤 正臣 選

開成町のいまむかし<3>

この町に住んで100年目の方も、100日目の方も、皆さんで確かめる開成町の「いま」と「むかし」。このコーナーでは、12回にわたり、文化財保護委員とともに町のいまむかしをたどります。

教育総務課 ☎82-5221

猿の石碑を探そう

庚申信仰とは、自分の欠点を体内の虫三戸が体から抜け出して、天の神様に告げ口しないように祈る信仰です。主に庚申塔を立てて祈願しました。塔には告げ口を防ぐための青面金剛(姿は猿の形相)や、三猿が彫られていることが多いのです。申年の今年、町内にある三猿が彫られた塔六基と猿田彦の神の石碑を紹介いたします。

- ① 宮台老人憩の家広場北隅にある塔は、天和3年(1683)の造立、青面金剛像。寺院個人の所有品を除き、町内最古の石造物です。
- ② 岡野ふれあい公園には、元禄11年(1698)造立の文字塔。「奉造立庚申供養」
- ③ 牛島盛徳寺山門前には、享保12年(1727)造立の青面金剛像。なお、正面上部に山王の文字があり、庚申信仰と山王信仰の結びつきが考えられます。
- ④ 金井島横道祖神敷地内の塔は、明和2年(1765)の造立で、青面金剛像。
- ⑤ 上島公民館前の塔は、明和5年(1768)造立の文字塔。「庚申供養」
- ⑥ 下島児童館跡地前の塔は、弘化4年(1847)造立の文字塔。「庚申塔」



①の宮台の庚申塔

延沢大畑道祖神敷地内には、明治16年(1883)造立、町内唯一の猿田彦の神の文字塔で、右上に庚申とあります。機会があれば、庚申塔のお猿さんを見つけてみてください。

文化財保護委員会 府川京子

生き生きレポート

開成小学校開成百年にあたり、校舎及び屋内運動場を昭和47年度からの継続事業で完成させました。次代を担う子どもたちがこの施設で逞しく育つよう、町民一同祈念します。(後略)
昭和50年5月 開成町長 露木 甚造

開成小学校 ☎83-1616

私にとって開成小学校は初めての学校です。早く開成小のことを知りたいので、毎日のように校舎内外を探検しています。すると、色々な発見があります。今日はその発見の中から、体育館入口付近にはめ込まれていたプレートに書かれた文をご紹介します。



1年生を迎える会

このプレートは、今から41年前に、当時の町民の皆さんが、この校舎や体育館で学び運動する開成の子どもたちに託した願い(次代を担う子どもたちが雑草のように逞しく育つ)を、今を生きる私たちに伝え教えてくれるものでした。

「雑草のように逞しく育つ」という言葉に込められた願いは、私の中で鶴岡千代子さんの「雑草のうた」の詩の世界に重なります。自分にとって不都合であったり不合理だったりする出来事に対しても「それでも平気さ」と前向きに捉えて力強く生き、仲間とともに成長していくこと。きっとその先にあるのは、いざというとき人の頼みになれる「自立した人間の姿ではないでしょうか。」

4月12日(火)の朝会では、このプレートの言葉と緒に、私からの願いも込めて詩「雑草のうた」を、次代を担う開成小の子どもたちにプレゼントしました。

開成小学校長 山崎恵美子